

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人社団明徳会		
事業所名	グループホームいつくしみの郷(1Fユニット)		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	令和3年9月1日	評価結果市町村受理日	令和3年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	true&ji_gyosyoCd=2278300311-00&PrefCd=22&VersionCd=022">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan>true&ji_gyosyoCd=2278300311-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院なので何かあった時すぐに受診ができる。筋力維持のため、散歩以外に毎日全員で嚙下体操やテレビ体操をしている。骨折後等の筋力低下による身体の歪みや痛みに対し、治療の必要性があり希望される方には個別で接骨院への通院援助をしている。園芸療法として中庭に季節の花や野菜を利用者と共植え、育て収穫し調理をしている。毎月季節に合った行事や書道を取り入れ、活動の様子を載せたおたよりを利用者や家族に発行している。出張による床屋やヤクルトの配達、十全売店による日用品の配達サービス等の社会資源を活用し生活の質の向上に努めている。家族との交流を大切に、面会や外出、外泊の制限は特別し

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に入ると「気持ちの良い生活(理念)」との利用者の達筆な書が出迎えてくださり、利用者本位の暮らしがあることが足を踏み入れたときから感じられる事業所です。「自宅復帰したい」本人の声を胸に止めた職員の橋渡しで始めた接骨院の治療から自宅復帰を果たした例を皮切りに累計8名が通い、現在も職員が週4日、3名の送迎をおこなっています。円背で90度腰が曲がった人も頭が上がってきて、「杖歩行だと傾斜が戻ってしまうから歩行器がいいですよ」「階段昇降を日に10回はやりましょうね」との柔道整復師の励ましに本人もさらに前向きとなり、転倒等で痛めた膝や腰が回復する姿を家族と職員とで嬉しく見守っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に「気持ちの良い生活」という理念を掲げ、職員全体で共有している。	ミーティングの場でも、理念に通ずる内容となれば立ち返るよう管理者から促しています。また「どうしてそうしたのか」を職員に確認すると、「こうしたほうが〇〇さんは気持ちがいいと思った」との返答があることで管理者は「浸透している」と感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナで交流は以前より少なくなった。コロナが落ち着いたら、地域の方々に納涼祭に参加して頂き、交流していきたい。また、散歩に出た際、近隣の方々と挨拶を交わしている。	コロナ禍で交流が絶たれていますが、町内会の役員とはご近所さんとしての立ち話から情報交換に至っています。また回覧板で事業所通信が町内に行き渡っているためか、お菓子屋さんから「こんなときだから」電話注文も受けます」との連絡が入っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂いたり町内会用のお便りを発行し、認知症の理解や支援、協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、会議を開催して、出た意見は、サービスの質の向上努めている。	地域包括支援センター、町内会長、民生委員を主なメンバーとして、時間を短縮したり、距離を置いて席につくなどの工夫を以て2ヶ月毎に運営推進会議を継続できています。短時間なもの、地域のコロナ状況等、貴重な情報を共有でき助けられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回、運営推進会議に参加して頂き、相談等は、その場で行う事が多い。	運営推進会議には市役所職員も年度初めに出席くださり、消毒薬やマスク、検査キットの配布のほかコロナ情報のeメール配信もあります。文書で届いたものは「重要なこと」なため、タイムカードレコーダーの横に貼出し、職員に周知しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけないことは理解しているが、利用者様の安全のためにエレベーターの操作や玄関のドアを開ける時は、職員が行っている。	「身体拘束適正化検討委員会は運営推進会議の後でおこなうと忘れぬ」と考え、本来なら3ヶ月に1回のところ、当事業所では隔月開催として丁寧に実施しています。此処2年新入社員はなく、年2回の研修会と委員会開催の記録は適切にファイル化されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングで話題にあげ、全員で振り返り、維持、改善に努めている。研修(オンライン)に参加し、学んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方がいたら、状況に応じて活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や家族等と十分に話し合い、理解、納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、面談、電話等で要望を聞き、意見を反映している。	「リハビリを増やして～」といった要望に応えつつ、各階毎の「いつくしみの郷だより」を情報として毎月家族に届けています。イベントでの笑顔や手習いの真剣な表情は十分安心に値するもので、また氷川きよしのコンサートDVD上映も利用者の意向に即したものです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、管理者、主任、副主任、各計画作成担当者で会議を行い、反映させている。それ以外でも、職員が意見が言いやすい場や時間を確保している。	「休憩はいい」との優しさが弊害となり、フロアで携帯を触る職員がでてしまったため、「しっかり休憩して携帯はそのときに」と奨励し改善されています。また「介護主任」という役付をつくり、人間関係のクッションや即時の軌道修正といった効用にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、希望休を通してくれ、個々の状況を十分に把握された勤務表になっている。年に4回自己評価をした上で各自で目標を立て、向上していけるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会に参加する機会があり、必要な知識や技術を学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修へ参加し、同業者と交流する機会があり、意見交換をして、サービス向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から困っていることや不安なこと要望を聞き、職員同士でも話し合い、安心して生活してもらえよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談の時に、出来るだけお話を伺えるよう努めている。また、面会に来た時等にも利用者さんの様子を伝えたり、お話を伺えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞きつつ、ご本人の様子も見ながら支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までしてきたことや出来ていることが継続して出来るよう支援し、出来ないことはさりげなくサポート出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて本人の様子を伝えたり、ご家族の要望を聞くなどして関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により難しくなっているが、窓越しでの面会は自由にできており、電話をしたり、手紙を書いたり関係が途切れないよう支援している。	針がもてる人にはボタンつけをしてもらうなど、以前の生活が続くよう支援しています。週4日接骨院に通う人たちは柔道整復師の優しさに包まれいつしかその場が馴染みとなり、また家族とは1階玄関脇の窓越しを新たな面会場所として「会える」が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士がお話できるよう食堂の席の配置に配慮したり、必要に応じて職員が橋渡しをしたり、レクリエーションを行うときは出来るだけ全員参加できるようお声掛けするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、ご家族よりお話を伺う機会もあるため、築いてきた関係性を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や本人との会話や日頃の様子から本人の思いや暮らしの意向の把握に努めている。	「今日はこれしたっけね」との職員の声かけによって「日付・名前・エピソード」を残すことが習慣化されており、所内では日記と呼んでいます。接骨院での質問に旨く答えられないと「日記は毎日書いてるだけんでえ」と言い訳する人もいる位、生活に浸透しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からお話を聞いたり、本人からも今までどういった生活をされてきたのか聞いたりして生活歴や馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録やバイタルチェックを行い、本人とコミュニケーションをとったり、職員間で情報を共有することで現状の把握が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアプラン会議を行い、現状に沿ったプランになるようにしている。ご家族の協力が必要な時は、その都度相談し、家族と面談を行い、現状に即した介護計画になるよう作成している。	全員の介護計画書にはリハビリ運動が位置付けられ、接骨院の通院がある人は柔道整復師の「かかとから踏むように注意してみてください」といった助言や指導をもとに顕著な向上がみられ、杖が不要になったり、自宅復帰が叶った例もあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応したサービスが提供できるよう常に状況把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学生さんが実習にきたり、美容院や出張による床屋さんの利用をし、利用者さんが楽しんで豊かな生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院へ月に1度定期的に受診しており、受診記録をご家族に郵送している。必要に応じてご家族に同行していただいたり、治療方針についてご家族に相談している。	大半の家族が「母体病院が隣接している」ことで入居を決めています。常には月1回の受診ですが、緊急事態宣言がでるとカルテ(代理)受診となります。優しい対応の医師のためファンが多く、バレンタインにはおめかししてチョコレートを届けにいく程です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、異変があったときや、利用者さんのことで気になることがあった場合はその都度看護師に報告相談し、必要に応じて病院へ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時職員が同行するので常の様子を伝え、入院中の様子は看護師を通して聞く機会もあり、退院時はサマリーにて情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできることを説明し、ご家族の意向等を確認し、方針を決めるようにしている。	医療が必要となれば介護老人保健施設や特別養護老人ホームなどへ移設となることは家族は承知しています。一方で管理者も看護師資格をもち、医療連携が確かなことから、数日間点滴指示となっても事業所で過ごすことができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が毎月マニュアルの確認をし、急変時や事故発生時に慌てず対応できるようにしている。また、必要に応じてマニュアルの内容も変更されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成されており、年2回防災訓練を行っている。同時に連絡網の訓練も行っている。	法定訓練は地震火災で年2回実施、フロアでの点呼後電話の連絡網の確認をおこなっています。最期まで伝言がうまく廻らないことなど、次に生かすためにも反省会をおこなっています。備蓄は法人内の施設のほか、厨房業者もローリングストックを保有しています。	次の3点を期待します。①感染症の対策訓練プログラムの策定 ②災害伝言ダイヤルの試用 ③職員毎に訓練メニューの体験度合いを把握のうえ書面化

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格を把握し、その人に合った声掛け、対応をしている。 また、入居者様のプライド、プライバシーを気にかけて話をするよう、意識している。	生活リハビリの一環で洗濯たみを皆でおこなっていますが、「全部自分もの」とかき集めてしまう利用者もあり、また自分のものは自分でたんでもらえるようにと、家族に同意を得て洗濯物には名前を入れています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇時間の過ごし方や、入浴時間は、本人に気希望を聞き決めている。 会話だけでなく、表情からも何を伝えたいか汲み取る心掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活リズムを考慮し、自分のペースで過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んでもらったり、朝は鏡を見て髪をとかしたり、顔を洗うなど習慣づけています。 女性の方は、化粧をしたりアクセサリーを見につけてる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と分担しておかずを分けたり、みそ汁をよそったりしている。 週に1回、自分たちでメニューを考え、作ったりしている。	普段は病院厨房の献立ですが、週1回職員の手作り調理がおこなわれ、お好み焼きをはじめ利用者も参加できるようなメニューが提供されています。また野菜を残す人には野菜ジュースをゼリーとする工夫や、誤嚥性肺炎予防に向け嚥下体操に力を注いでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事形態を提供している。 お茶だけではなく、紅茶や甘酒など好みに合わせた飲み物を提供している。 またゼリーを食べてもらうなどして、しっかり水分をとるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には、ハミガキ入れ歯の洗浄を行っている。個別にマウスウォッシュを使用してる方もいる。 毎食前に口腔体操の時間を取り入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎食前後にトイレの声掛け、誘導をしている。 記録をつけ、タイミングを把握し、トイレで排泄できるよう努めている。	「1時間に1回と頻回にトイレに向かう利用者がパーキンソンのため大変なんじゃないか」ということでポータブルトイレを居室に置くに至り、動線が短くなって転倒リスクが減り、またトイレの頻回も改善されています(早めにはかないという焦りが除かれた)。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、自然に排便できるよう、牛乳やヤクルトを飲んでいます。 体を動かしたり、腹部マッサージを行い、便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望を確認している。 リラックスできるように、入浴剤を使用したり、温度も気を付けている。	週2回を清潔の目安としていますが、毎日入浴の人もいます。代謝がわるいのか常に手足が冷たいことが気がかりで、職員が毎日下半身浴を支援し、以前より体調が良好になった例もあります。他にも水虫のため毎日足浴を実施する人が2名います。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごしてもらっている。 就寝時は、室温や、掛物の調節している。 トイレが近い方には、ポータブルトイレ置き、安心して休息できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、しっかり把握するよう、お薬情報をファイルにとじている。 体調の変化によって、薬の調節が必要な場合は、看護師に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人のできる力を活かせるように、毎日お手伝いや、レクリエーションの時間を取り入れています。できた事に対し、激励の言葉をかけ、継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在、感染症流行中のため、外出はできていません。 その代わりに、敷地内の中庭に行き外気浴をしたり、外を見る時間を多く取り入れている。	恒例の美園公園へのピクニックは遠のき、現在はエーデル庭園(併設病院の敷地内)の散歩に留まっています。森林公園へ降りないドライブでかけたり、初詣の代替として段ボールで神社をつくるなど、外出支援の代わりとなるものを模索しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のお金は、おこずかいとして職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があり、希望されたときは、話をされています。 コミュニケーションのツールとして、家人に手紙を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った、掲示物作りを入居者様と作成している。食堂や、壁に飾り、みんなで季節感を味わうようにしている。	もともと消毒液をつかっていたためコロナ禍となって掃除方法を替えていませんが、消毒液を職員に個別にもたせてケアの対象者が替わる度に手指消毒しています。窓は常時少しずつ開け、閉めないで欲しい箇所には漏れがないよう貼り紙をしています。	コロナ禍の現在は以前より出入りは少ないものの、家族や地域の皆さんが気持ちよく関わられるよう、虫害(周囲が田畑で自然豊か)と浄化槽の臭気については対策を確実なものとしていくことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士で話ができるよう、席の配慮をしたり、ソファに座って、テレビを見たりして自由に過ごせる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、好きな歌手ポスターを貼ったり、慣れ親しんだ家具を置いて居心地良い居室の雰囲気作りに努めている。	足取りが不安定なため、ベッドをやめ床部屋に替えた居室があります。職員の見守りの薄い就寝時にむやみに立つことへのリスク対応でしたが、床から直に立ち上がることを日々積むことで下肢の筋力が高まり、足取りがよくなったという嬉しい事例に結ばれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレは貼り紙をして、場所を分かりやすく示す工夫をしている。		

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人社団明徳会		
事業所名	グループホームいつくしみの郷(2Fユニット)		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	令和3年9月1日	評価結果市町村受理日	令和3年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ijgvoosvcd=2278300311-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院なので何かあった時すぐに受診ができる。筋力維持のため、散歩以外に毎日全員で嚙下体操やテレビ体操をしている。骨折後等の筋力低下による身体の歪みや痛みに対し、治療の必要性があり希望される方には個別で接骨院への通院援助をしている。園芸療法として中庭に季節の花や野菜を利用者と共植え、育て収穫し調理をしている。毎月季節に合った行事や書道を取り入れ、活動の様子を載せたおたよりを利用者や家族に発行している。出張による床屋やヤクルトの配達、十全売店による日用品の配達サービス等の社会資源を活用し生活の質の向上に努めている。家族との交流を大切に、面会や外出、外泊の制限は特別し

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に入ると「気持ちの良い生活(理念)」との利用者の達筆な書が出迎えてくださり、利用者本位の暮らしがあることが足を踏み入れたときから感じられる事業所です。「自宅復帰したい」本人の声を胸に止めた職員の橋渡しで始めた接骨院の治療から自宅復帰を果たした例を皮切りに累計8名が通い、現在も職員が週4日、3名の送迎をおこなっています。円背で90度腰が曲がった人も頭が上がってきて、「杖歩行だと傾斜が戻ってしまうから歩行器がいいですよ」「階段昇降を日に10回はやりましょうね」との柔道整復師の励ましに本人もさらに前向きとなり、転倒等で痛めた膝や腰が回復する姿を家族と職員とで嬉しく見守っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に「気持ちの良い生活」という理念を掲げ、職員全体で共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナで交流は以前より少なくなった。コロナが落ち着いたら、地域の方々に納涼祭に参加して頂き、交流していきたい。また、散歩に出た際、近隣の方々と挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂いたり町内会用のお便りを発行し、認知症の理解や支援、協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、会議を開催して、出た意見は、サービスの質の向上努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回、運営推進会議に参加して頂き、相談等は、その場で行う事が多い。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけないことは理解しているが、利用者様の安全のためにエレベーターの操作や玄関のドアを開ける時は、職員が行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングで話題にあげ、全員で振り返り、維持、改善に努めている。研修(オンライン)に参加し、学んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方がいたら、状況に応じて活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や家族等と十分に話し合い、理解、納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、面談、電話等で要望を聞き、意見を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、管理者、主任、副主任、各計画作成担当で会議を行い、反映させている。それ以外でも、職員が意見が言いやすい場や時間を確保している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、希望休を通してくれ、個々の状況を十分に把握された勤務表になっている。年に4回自己評価をした上で各自で目標を立て、向上していけるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会に参加する機会があり、必要な知識や技術を学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修へ参加し、同業者と交流する機会があり、意見交換をして、サービス向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から困っていることや不安なこと要望を聞き、職員同士でも話し合い、安心して生活してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談の時に、出来るだけお話を伺えるよう努めている。また、面会に来た時等にも利用者さんの様子を伝えたり、お話を伺えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞きつつ、ご本人の様子も見ながら支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までしてきたことや出来ていることが継続して出来るよう支援し、出来ないことはさりげなくサポート出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて本人の様子を伝えたり、ご家族の要望を聞くなどして関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により難しくなっているが、窓越しでの面会は自由にできており、電話をしたり、手紙を書いたり関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士がお話できるよう食堂の席の配置に配慮したり、必要に応じて職員が橋渡しをしたり、レクリエーションを行うときは出来るだけ全員参加できるようお声掛けするようになっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、ご家族よりお話を伺う機会もあるため、築いてきた関係性を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や本人との会話や日頃の様子から本人の思いや暮らしの意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からお話を聞いたり、本人からも今までどういった生活をされてきたのか聞いたりして生活歴や馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録やバイタルチェックを行い、本人とコミュニケーションをとったり、職員間で情報を共有することで現状の把握が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアプラン会議を行い、現状に沿ったプランになるようにしている。ご家族の協力が必要な時は、その都度相談し、家族と面談を行い、現状に即した介護計画になるよう作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応したサービスが提供できるよう常に状況把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学生さんが実習にきたり、美容院や出張による床屋さんの利用をし、利用者さんが楽しんで豊かな生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院へ月に1度定期的に受診しており、受診記録をご家族に郵送している。必要に応じてご家族に同行していただいたり、治療方針についてご家族に相談している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、異変があったときや、利用者さんのことで気になることがあった場合はその都度看護師に報告相談し、必要に応じて病院へ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時職員が同行するので常の様子を伝え、入院中の様子は看護師を通して聞く機会もあり、退院時はサマリーにて情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできることを説明し、ご家族の意向等を確認し、方針を決めるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が毎月マニュアルの確認をし、急変時や事故発生時に慌てず対応できるようにしている。また、必要に応じてマニュアルの内容も変更されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成されており、年2回防災訓練を行っている。同時に連絡網の訓練も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格を把握し、その人に合った声掛け、対応をしている。 また、入居者様のプライド、プライバシーを気にかけて話をするよう、意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇時間の過ごし方や、入浴時間は、本人に気希望を聞き決めている。 会話だけでなく、表情からも何を伝えたいか汲み取る心掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活リズムを考慮し、自分のペースで過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んでもらったり、朝は鏡を見て髪をとかしたり、顔を洗うなど習慣づけています。 女性の方は、化粧をしたりアクセサリーを見につけてる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と分担しておかずを分けたり、みそ汁をよそったりしている。 週に1回、自分たちでメニューを考え、作ったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事形態を提供している。 お茶だけではなく、紅茶や甘酒など好みに合わせた飲み物を提供している。 またゼリーを食べてもらうなどして、しっかり水分をとるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には、ハミガキ入れ歯の洗浄を行っている。個別にマウスウォッシュを使用してる方もいる。 毎食前に口腔体操の時間を取り入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎食前後にトイレの声掛け、誘導をしている。 記録をつけ、タイミングを把握し、トイレで排泄できるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、自然に排便できるよう、牛乳やヤクルトを飲んでいます。 体を動かしたり、腹部マッサージを行い、便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望を確認している。 リラックスできるように、入浴剤を使用したり、温度も気を付けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごしてもらっている。 就寝時は、室温や、掛物の調節している。 トイレが近い方には、ポータブルトイレ置き、安心して休息できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、しっかり把握するよう、お薬情報をファイルにとじている。 体調の変化によって、薬の調節が必要な場合は、看護師に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人のできる力を活かせるように、毎日お手伝いや、レクリエーションの時間を取り入れています。できた事に対し、激励の言葉をかけ、継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、感染症流行中のため、外出はできていません。 その代わりに、敷地内の中庭に行き外気浴をしたり、外を見る時間を多く取り入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のお金は、おこずかいとして職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があり、希望されたときは、話をされています。 コミュニケーションのツールとして、家人に手紙を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った、掲示物作りを入居者様と作成している。食堂や、壁に飾り、みんなで季節感を味わうようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士で話ができるよう、席の配慮をしたり、ソファに座って、テレビを見たりして自由に過ごせる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、好きな歌手ポスターを貼ったり、慣れ親しんだ家具を置いて居心地良い居室の雰囲気作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレは貼り紙をして、場所を分かりやすく示す工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人社団明徳会		
事業所名	グループホームいつくしみの郷(3Fユニット)		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	令和3年9月1日	評価結果市町村受理日	令和3年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kanji=true&ji_gyosyoCd=2278300311-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院なので何かあった時すぐに受診ができる。筋力維持のため、散歩以外に毎日全員で嚙下体操やテレビ体操をしている。骨折後等の筋力低下による身体の歪みや痛みに対し、治療の必要性があり希望される方には個別で接骨院への通院援助をしている。園芸療法として中庭に季節の花や野菜を利用者と共植え、育て収穫し調理をしている。毎月季節に合った行事や書道を取り入れ、活動の様子を載せたおたよりを利用者や家族に発行している。出張による床屋やヤクルトの配達、十全売店による日用品の配達サービス等の社会資源を活用し生活の質の向上に努めている。家族との交流を大切に、面会や外出、外泊の制限は特別し

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に入ると「気持ちの良い生活(理念)」との利用者の達筆な書が出迎えてくださり、利用者本位の暮らしがあることが足を踏み入れたときから感じられる事業所です。「自宅復帰したい」本人の声を胸に止めた職員の橋渡しで始めた接骨院の治療から自宅復帰を果たした例を皮切りに累計8名が通い、現在も職員が週4日、3名の送迎をおこなっています。円背で90度腰が曲がった人も頭が上がってきて、「杖歩行だと傾斜が戻ってしまうから歩行器がいいですよ」「階段昇降を日に10回はやりましょうね」との柔道整復師の励ましに本人もさらに前向きとなり、転倒等で痛めた膝や腰が回復する姿を家族と職員とで嬉しく見守っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に「気持ちの良い生活」という理念を掲げ、職員全体で共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナで交流は以前より少なくなった。コロナが落ち着いたら、地域の方々に納涼祭に参加して頂き、交流していきたい。また、散歩に出た際、近隣の方々と挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂いたり町内会用のお便りを発行し、認知症の理解や支援、協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、会議を開催して、出た意見は、サービスの質の向上努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回、運営推進会議に参加して頂き、相談等は、その場で行う事が多い。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけないことは理解しているが、利用者様の安全のためにエレベーターの操作や玄関のドアを開ける時は、職員が行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングで話題にあげ、全員で振り返り、維持、改善に努めている。研修(オンライン)に参加し、学んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方がいたら、状況に応じて活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や家族等と十分に話し合い、理解、納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、面談、電話等で要望を聞き、意見を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、管理者、主任、副主任、各計画作成担当で会議を行い、反映させている。それ以外でも、職員が意見が言いやすい場や時間を確保している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、希望休を通してくれ、個々の状況を十分に把握された勤務表になっている。年に4回自己評価をした上で各自で目標を立て、向上していけるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会に参加する機会があり、必要な知識や技術を学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修へ参加し、同業者と交流する機会があり、意見交換をして、サービス向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から困っていることや不安なこと要望を聞き、職員同士でも話し合い、安心して生活してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談の時に、出来るだけお話を伺えるよう努めている。また、面会に来た時等にも利用者さんの様子を伝えたり、お話を伺えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞きつつ、ご本人の様子も見ながら支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までしてきたことや出来ていることが継続して出来るよう支援し、出来ないことはさりげなくサポート出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて本人の様子を伝えたり、ご家族の要望を聞くなどして関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により難しくなっているが、窓越しでの面会は自由にできており、電話をしたり、手紙を書いたり関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士がお話できるよう食堂の席の配置に配慮したり、必要に応じて職員が橋渡しをしたり、レクリエーションを行うときは出来るだけ全員参加できるようお声掛けするようになっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、ご家族よりお話を伺う機会もあるため、築いてきた関係性を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や本人との会話や日頃の様子から本人の思いや暮らしの意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からお話を聞いたり、本人からも今までどういった生活をされてきたのか聞いたりして生活歴や馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録やバイタルチェックを行い、本人とコミュニケーションをとったり、職員間で情報を共有することで現状の把握が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアプラン会議を行い、現状に沿ったプランになるようにしている。ご家族の協力が必要な時は、その都度相談し、家族と面談を行い、現状に即した介護計画になるよう作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応したサービスが提供できるよう常に状況把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学生さんが実習にきたり、美容院や出張による床屋さんの利用をし、利用者さんが楽しんで豊かな生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院へ月に1度定期的に受診しており、受診記録をご家族に郵送している。必要に応じてご家族に同行していただいたり、治療方針についてご家族に相談している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、異変があったときや、利用者さんのことで気になることがあった場合はその都度看護師に報告相談し、必要に応じて病院へ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時職員が同行するので常の様子を伝え、入院中の様子は看護師を通して聞く機会もあり、退院時はサマリーにて情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできることを説明し、ご家族の意向等を確認し、方針を決めるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が毎月マニュアルの確認をし、急変時や事故発生時に慌てず対応できるようにしている。また、必要に応じてマニュアルの内容も変更されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成されており、年2回防災訓練を行っている。同時に連絡網の訓練も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格を把握し、その人に合った声掛け、対応をしている。 また、入居者様のプライド、プライバシーを気にかけて話をしよう、意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇時間の過ごし方や、入浴時間は、本人に気希望を聞き決めている。 会話だけでなく、表情からも何を伝えたいか汲み取る心掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活リズムを考慮し、自分のペースで過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んでもらったり、朝は鏡を見て髪をとかしたり、顔を洗うなど習慣づけています。 女性の方は、化粧をしたりアクセサリーを見につけてる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と分担しておかずを分けたり、みそ汁をよそったりしている。 週に1回、自分たちでメニューを考え、作ったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事形態を提供している。 お茶だけではなく、紅茶や甘酒など好みに合わせた飲み物を提供している。 またゼリーを食べてもらうなどして、しっかり水分をとるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には、ハミガキ入れ歯の洗浄を行っている。個別にマウスウォッシュを使用してる方もいる。 毎食前に口腔体操の時間を取り入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎食前後にトイレの声掛け、誘導をしている。 記録をつけ、タイミングを把握し、トイレで排泄できるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、自然に排便できるよう、牛乳やヤクルトを飲んでいきます。 体を動かしたり、腹部マッサージを行い、便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望を確認している。 リラックスできるように、入浴剤を使用したり、温度も気を付けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごしてもらっている。 就寝時は、室温や、掛物の調節している。 トイレが近い方には、ポータブルトイレ置き、安心して休息できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、しっかり把握するよう、お薬情報をファイルにとじている。 体調の変化によって、薬の調節が必要な場合は、看護師に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人のできる力を活かせるように、毎日お手伝いや、レクリエーションの時間を取り入れています。できた事に対し、激励の言葉をかけ、継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、感染症流行中のため、外出はできていません。 その代わりに、敷地内の中庭に行き外気浴をしたり、外を見る時間を多く取り入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のお金は、おこずかいとして職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があり、希望されたときは、話をされています。 コミュニケーションのツールとして、家人に手紙を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った、掲示物作りを入居者様と作成している。食堂や、壁に飾り、みんなで季節感を味わうようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士で話ができるよう、席の配慮をしたり、ソファに座って、テレビを見たりして自由に過ごせる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、好きな歌手ポスターを貼ったり、慣れ親しんだ家具を置いて居心地良い居室の雰囲気作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレは貼り紙をして、場所を分かりやすく示す工夫をしている。		